

## 中国政府公認 BCT (ビジネス中国語試験) の 2006-2007 試験データ統計 ～日本、韓国、シンガポールの比較～

企画・策定：北京大学ビジネス中国語試験 (BCT) 研究・開発弁公室  
セリングビジョン(株)が同データ統計を以下、要約し、日本語に翻訳いたしました。

2006年10月にBCTはシンガポールにて初の試験を行った後、2007年までBCTは中国の国内、韓国、日本などで正式に開催されました。本レポートは2006年10月と2007年一年間のBCTの受験生の「国家漢弁の受験生アンケート」結果を統計したデータです。アンケートの項目は受験生の学歴、仕事経験、中国語の学習歴、中国語の使用状況などです。

### 2006年 2007年受験生の概況

受験生の60%は女性です。

21歳-30歳の受験生が最も多く、59%を占めています。

受験生の64%の学歴は大学です。

受験生の65%は学生であり、28%が社会人です。

社会人受験生のうち、管理職は83%、非管理職は17%です。

6年間以上と2-4年間の中国語の学習歴をもつ受験生は多数で、それぞれ25%を占めています。

58%の受験生は毎日中国語を使っています。

仕事において、ヒヤリング、会話、読解、作文という順に非常に重要と思っている受験生の割合はそれぞれに86%、84%、61%、52%です。

BCTを受験する目的：57%の受験生は自分自身のビジネス中国語のレベルをはかるためと答え、就職のためと回答した方はわずか15%です。

70%の受験生は他の中国語検定試験を受験したことがあります。

69%の受験生は非中国系の方です。

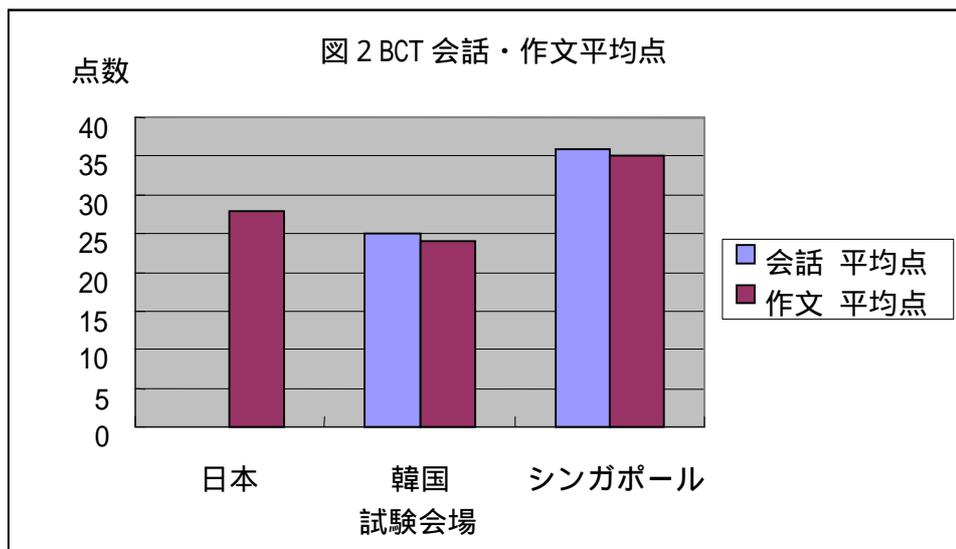
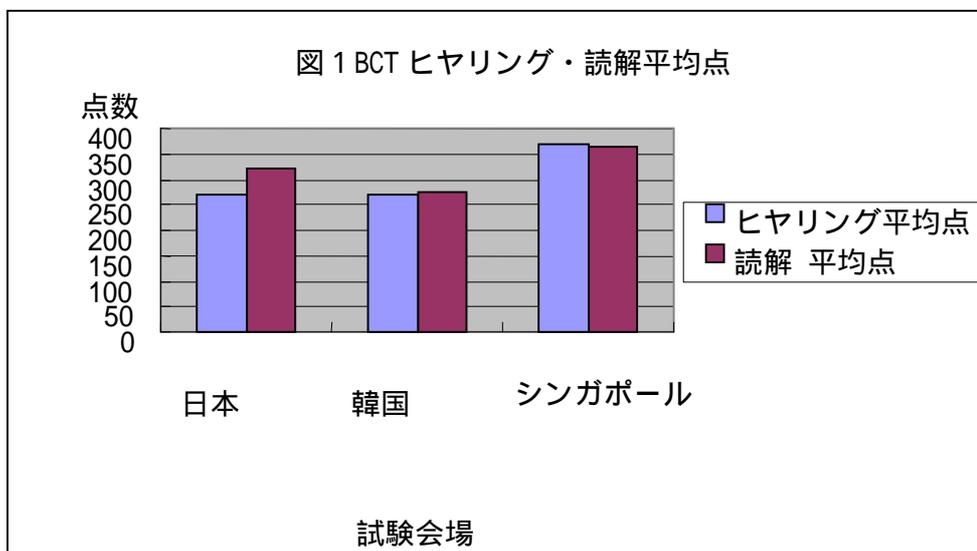
### 各国の試験会場

2006-2007年BCTは中国の国内で4回、韓国で7回、シンガポールで6回、日本で1回実施されました。韓国で行われた受験生のうち、98%は韓国人で、その他は中国系の1.4%です。シンガポールにおける受験生のうち、90%はシンガポール人で、5.3%は中国人、3.9%はマレーシア人です。中国で行われた受験生のうち、韓国人は71%で、次に日本人の10%、残りは多くの東南アジアの方々に、アメリカ人は僅か1.2%です。日本で行われた受験生のうち、98%が日本人であり、残り2%が中国人です。

2007年に日本におけるBCT試験はヒヤリング、読解、会話、作文の4つの試験を行い、会話試験は行っていません。以下は主に、日本、韓国、シンガポール各試験会場でのデータの比較です。

国家漢弁により、昨年日本で実施した BCT 会場と 2006 年～2007 年まで日本、韓国とシンガポールでの試験会場でのデータ統計：

試験会場	ヒヤリング 平均点	読解 平均点	会話 平均点	作文 平均点
日本	270	321		28
韓国	269	276	25	24
シンガポール	370	366	36	35



日本会場において 98%、ヒヤリングの平均取得点は 270 点（500 点満点）で、読解の平均点数は 321 点（500 点満点）です。会話試験を除き、作文試験の平均点は 28 点（5

0点満点)です。

### ヒヤリング・読解試験の各等級の取得割合(%)状況一覧

国 \ 等級	ヒヤリング (%)					読解 (%)				
	1級	2級	3級	4級	5級	1級	2級	3級	4級	5級
日本	7.6	21.4	30.5	25.2	15.3	0	0.08	43.5	44.3	11.5
韓国	4.6	21.7	33.4	31.7	8.5	1.1	11.8	54.9	24.1	8.0
シンガポール	0.07	1.5	10.0	56.2	31.6	0.01	1.7	17.8	52.3	28.1

### 会話・作文試験の各等級の取得割合(%)状況一覧

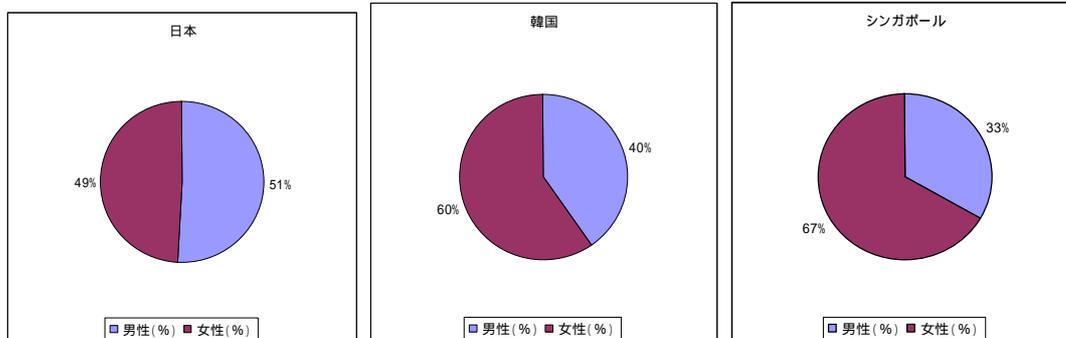
国 \ 等級	会話 (%)					作文 (%)				
	1級	2級	3級	4級	5級	1級	2級	3級	4級	5級
日本						5.3	22.1	45.8	22.9	3.8
韓国	12.7	17.8	40.2	23.1	22.0	15.5	14.4	42.1	24.9	3.2
シンガポール	1.7	3.3	16.4	46.6	32.0	3.8	6.6	13.4	48.4	27.8

#### 年齢：

各試験会場において、21歳～30歳の受験生の比率が一番高く、日本は58.6%を占めており、韓国では66.7%です。シンガポールでは、20歳以下の受験生が一番多く、57.7%にのびりました。

#### 性別：

受験者の男女の割合は男性39%、女性61%と、女性のほうが男性より多いです。韓国では男性40.4%に対し女性59.6%です。シンガポールでは、男性33.4%に対し女性66.6%です。しかし、日本では、男女の割合はほぼ同じで、それぞれ50.8%と49.2%です。



### **学歴：**

受験者全体で、64.4%の方は大学の学歴を持っています。日本の受験者のうち、大学の学歴は 80%で、韓国は 83.6%です。シンガポールの受験生の中で、普通の中学校に通っている学生が一番多く 71.3%です。

### **就職状況：**

BCT の各国の受験生の中で学生が多く 50%以上を占めました。韓国で学生の割合は 67%で仕事をされている方は 26%です。シンガポールで学生は 56%で仕事されている方は 38%です。しかし、日本の場合、57%の方は定職かパート仕事をしています。学生は 38.4%です。

### **中国語の学習歴：**

93.2%のシンガポールの受験生は中国語の学習歴は 6 年間以上です。韓国と日本の受験生の中で、割合が一番高いのは 2-4 年間勉強した方でそれぞれに 38.8%と 39.1%です。半年以下の割合が一番低く、韓国と日本はそれぞれに 3.2%と 6.4%です。6 年間以上勉強した日本の受験生の割合は 19%で、韓国は僅か 6.2%です。

データによると中国語を勉強する時間が長ければ長いほど、成績の取得点数は高いです。

### **中国語の使用状況：**

BCT の各国の受験生の総合データの統計により、約 80%の受験生は毎日または週に 3 回程度中国語を使っています。日本、韓国、シンガポールの毎日中国語を使っている受験生の割合はそれぞれ 53%、79%と 82%です。中国語をよく使う方は成績が良いということは明らかです。

### **B C T の受験目的：**

各国の受験生のうち、60~70%は自分のビジネス中国語の能力レベルをはかるため受験しました。この受験目的の日本と韓国の受験生の割合は 70.4%と 59%です。シンガポールでは団体（学生と企業）で受験に参加したケースが最も多く、受験生の 42%を占めています。